

★コロナ関連学校方向性ニュース

インターネットの調査内容

- ① インターネットにつながる端末とインターネット環境があり、学習サイトの閲覧等ができる。
- ② インターネットにつながる端末はあるが、インターネット環境がなく、学習サイトの閲覧等ができない。
- ③ インターネットにつながる端末はないが、インターネット環境はある。
- ④ インターネットにつながる端末もインターネット環境もない。

この4つに関して電話でおたずねしますので、教えてください。

★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

校長ミッション第3弾

連日の自宅待機でみなさんもストレスがたまっていると思います。自分にあった発散方法はありますか？

今回のコロナウイルス感染拡大状況は、視点を変えると世の中の動きを知り、物事を深く考えるには絶好の機会とも言えます。ただの自宅待機ととらえるか、世の中の動きを広く察知し、自分なりの意見を持ち、外に発信するチャンスととらえるかは、あなたの選択次第です。そこでの違いが、今後のみなさんの成長に大きな違いを生むことでしょう。まずは様々な問題点の整理を行いましょう。直接自分に関係がある事柄だけでなく、世の中全体の問題にまで目を向けてみましよう。以下の第3弾・第4弾の課題は、参加自由の課題とします。積極的にチャレンジしようという思う強者(つわもの)を募集します。ぜひ挑戦してみてください。

校長ミッション第3弾

課題

「新型コロナウイルス感染拡大防止に関して PCR 検査(コロナウイルスに感染しているかどうかを確定診断する検査)をもっと増やすべきか」 あなたの意見を教えてください。

※あなたがそう考えた理由、その意見の良いところ・よくないところも書いて下さい。

校長ミッション第3弾に関しては、A4用紙に項目3つについて書き、紙の裏に新しい学年・クラス・番号・名前を書いて、登校が再開された後に校長室前のボックス(校長室前にあるピンクの郵便受け)に入れてください。(ミッション1・2に関しては学級担任の先生に提出してください)



★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

日本に住む人は大半が日本人で、国内にいる海外からの方はまだまだ多くない現状ですが、20年前のアラブ首長国連邦(略称 UAE)では、日本とは真逆の割合で、2割の自国民と8割の外国人労働者が住んでいるといわれていました。私もその外国人労働者の一人でした。つまり、UAEでは大半の労働力が外国人によってまかなわれていました。石油施

設で働く人。高いビルを建てる人。スーパーマーケット・雑貨屋・食料品店・お土産物屋・衣料品店・靴屋・レストランなどあらゆるお店関係の人。ビルのメンテナンスをする人(ウォッチマン)・自動車販売業の人・道路や公園の清掃をする人・メイド・タクシードライバー・警察官・教師・歯科医・医師・政府役人・銀行員・旅行業者など多種多様です。出身国も、エジプト・オマーン・イエメン・シリア・サウジアラビア・イラン・パキスタン・インド・スリランカ・フィリピン・タイ・中国・韓国・日本・アメリカ・カナダ・イギリス・フランス・ドイツなど世界各国から労働者が集まっていました。不思議と「警察官はオマーン人が多い」、「タクシードライバーはパキスタン人が多い」など国ごとにざっくりとした職業のすみわけがありました。

アブダビで生活を始めた当時、ビルの管理をしていたパキスタン人の方(ウォッチマン)から「あなたの車を洗わせてほしい」と頼まれました。値段を聞くと「1500円」とのことで、「まあ手洗いだし1回1500円ならいいか」と私は考えていたのですが、彼は毎日洗ってくれて1月で1500円という意味だったようです。あまりの安さに驚きました。アジアの多くの国々から来ている人々は、正直、我々日本人からすると、考えられないような安い給料で働いていました。彼らの生活は、我が家が4人家族で住むような部屋に、10数名で同居して、食べ物はパンとシーチキンの缶詰一つを、全員で分けて食べる状況でした。唯一雇い主から特別に認められていた権利は、年に一度母国へ帰るためのチケット代でした。母国で家族に会うことを楽しみにしながら、みなさん働いておられたのです。

私は、失礼ながらその方たちに聞いたことがありました。「あなたたちは幸せか?」と、するとその方たちは、「当たり前だ。幸せに決まっている。君はもしかして幸せじゃないのか?」と逆に質問を返されました。「幸せ」の意味について、私はこれまで勘違いしていたのかなって思いました。

アブダビにはたくさんのタクシーが走っていて、街中ならどこでもストレスなくすぐに利用することができました。当時のアブダビのタクシー料金は、日本でいうバス料金ぐらいでした。街中を少し移動するなら、たしか、100円程度で行けました。そのため灼熱の中の移動は、見えるぐらいの近距離でもタクシーを使うことが多かったのです。

我が家から郊外にある日本人学校までは少し離れていて、それでも、1500円程度の料金でした。ある時自家用車の故障でタクシーに乗って離れた学校に向かいました。1500円払いタクシーを降りて仕事をしていると、先ほど運転手さんが戻ってきました。どうやら、私は彼の車に財布を置き忘れていたようなのです。彼は、私を30分かけて学校まで乗せ、また30分かけて街に戻り、そこで財布に気が付いたようでした。そこからもう

一度30分かけて学校に向かい、私に財布を届けて、私が差し出したお礼も受け取らずまた30分かけて街に戻っていったのでした。財布には、たまたま、たくさんのお金が入っていました。きっと彼の数日分以上の稼ぎだったと思います。アブダビで暮らすうちにこういった人の温かさを感じる機会が何度となくありました。世界中から出稼ぎに来ている人がたくさんいる国だけに、世界中の人の温かさを感じることができました。

アラブ首長国連邦に派遣が決まったとき、親せきや友人からは、「大丈夫か？」「戦争しているのでは？」「危険はないのか？」と数多く聞かれました。しかし、治安は大変良く、私はヨーロッパを旅行しているときの方が、わが子の手を放さないようにより気をつけていたくらいでした。もちろん私が気付いてない中での犯罪はあったのかもしれませんが、私自身は、安全安心な暮らしの中で、たくさんの親切な人に出会うことができました。



